

漢字は表意文字ではない 表語文字である

漢字は従来、表意文字という名で呼ばれてきています。しかし、表意文字は表音文字に対立する名称です。ところが、漢字は、最初から、発音と意味とこの両者を表わしている文字なのです。だから、漢字を表意文字と呼ぶのは、少なくとも正しい呼び方ということではできません。そう呼んでいたからこそ、今まで、漢字は“非表音文字”であると人々に誤った解釈をさせてしまったのです。しかし、これは事実と反しています。

私は、漢字を、“表語文字”と呼ぶことを提唱します。音声と意味を持つ“ことば”を表わすのが、文字の本来の使命であり、その“ことばを表わす”という名の“表語文字”こそ、漢字に最もふさわしい名称だと思うからです。

表語文字という名称ならば、表音、表意を兼ね備えていることが、明らかに察知できることでしょう。しかも、それが表意文字、表音文字

の上に立つ、最も理想的な文字であることをもよく示すことでしょう。

漢字がこういう文字であるからこそ、欧米でも再認識され、これを取り入れることに真剣になっているのです。

先年来日された、アメリカ最高の言語学者と言われるノアム・チョムスキー氏が、“表音的な表記法”を、

「それは、意味を理解しようがしまいが、聞いたことをただ再生するためにできていると言えるでしょう」(朝日ジャーナル vol. 8 No. 40)

と言ってこれを否定し、

「日本語の事情についてはよく知りませんが」

と断って、

「漢字仮名まじりの文字体系は、世界で最も良い表記法かも知れないと思います」

と言っていることは、文字に対する評価が今変わりつつあることを表わしていると思います。